

『琅』三十号への手紙

.....

ら

啓子ちゃんのためなき勉強を祈って  
昭和二十年睦月 和田英夫

の銘があり、感無量でした。

昔義兄は何かの時には本を私達にプレゼントし、必ず銘を書くのが常でした。物のない時の悪い紙の本でしたがしばし感慨にふけりました。

先日は本当に市ヶ谷までお越しくださいまして有難うございました。

くれぐれも御身体大切に。

4/30 廣江啓子

私も稀勢の里を応援していますが、今一つ氣力が足りないのがっかりしてました。先場所は一寸出てきた様に思います。伴奏は指揮者とオーケストラを一人で行うので集中力がとても大変です。それが老化が防げたかと（かげの力持ち）私は有難く思っています。

宗内 敦 先生

先日古い楽譜を整理していますと分厚いシューベルトの歌曲全集が出て参り、その本の扉に亡き義兄和田英夫（憲法学者）か

道路脇の平戸ツツジの控えめな淡い香りに誘われるように街路樹の緑も日に日に色濃くなりました。先生におかれましては、お変わりなくお過ごしのことと、お慶び申し上げます。

ありがとうございます。また、私の拙文

をお載せいただき、また、期せずして、旧友の赤松氏の文と並び読まれる恥ずかしさに汗顔の思いです。遠く離れて活躍する盟友の美文に感心しきりでありました。

さて、牛村圭氏の「歴史に向きあい、語りあうために」は、明治から昭和の近現代史を学び直している私にとっては、大変勉強になる提言でした。正しいことは何だったのかを知るためには、思想や文献等にも偏りのない選択が必要であると留意しているつもりでしたが、発表された時代背景や資料の分析のしかたなど公平な判断が必要であることがよくわかりました。参考にしたいと考えています。

先日3月19日土曜日の夕刻に、お電話を頂き、先生のお元気なお声に触れ、懐かしさとともに温かさを感じる事ができました。ありがとうございます。ちょうど大阪場所を観戦にお見えだったのでですね。前半は、先生のご鼻頂、大関稀勢の里が調子良く、盛り上がりを見せておりましたので、

早朝よりNHKの「幕の内全取組」で応援していました。「二言、三言、世迷い言（17）」で記されているように、「四股II腰の強さ」はあらゆるスポーツの基本です。私も身をもって感じましたので、娘にも足腰の強さを説き、トレーニングさせました。

歩くことの大切さは、身をもって感じております。授業を持たせて貰わなくなつて3年間、デスクワークが多くなり、運動不足から体重が増え、おまけにストレス解消で飲む回数も多くなり、定期検診の数値が芳しくありませんでした。五十路を迎えて、自分の体には気をつけなければと、駅までの自転車通勤をやめ、往復1時間歩いて通勤しています。体重が10kgほど減り、学生時代のスーツが合うようになりました。

私は、歌を口ずさみながらではなく、学生時代に聞いていたポップスを聞きながら歩いています。若かったときにはよくわからなかった歌詞の意味に共感できるのも、

年齢を重ねたからだと感じました。目には季節の移り変わりを感じ、健康診断の数値も安定し、体調も良く、多くの恩恵を享受しています。ただ一つ、靴の底がすぐに減るのが難点ですが、新しい靴を買う喜びとして納得させています。「健康は歩行から」を実践していきたいと考えていますが、

ただ一つ、趣味が無いことが困っていることです。定年までには何とか探していきたいと先生のエッセイで思った次第です。

どうか、末永くご健康で活躍をお祈りいたします。 敬具

5/5 井口光児

宗内 敦様

前略、この度は、また「琅」をお送りいただき、ありがとうございます。

早速読ませていただきました。相変わらず貴兄の意欲的な編集ぶりを感じます。「アイ・ラブ・バリ」では、西欧文明の中心であるバリの不行き届きな諸相が描かれてい

て、改めて日本の細やかな気配りの文化を誇らしく思いました。

ご健康に留意されての御活動を祈っております。 草々

5/5 菊池明

「琅」三十号、ご贈賜わり、誠にありがとうございます。いつもいつも気に留めていただき、心より感謝申し上げますとともに、ますますご健勝で活躍されている宗内先生のお姿に、七十三歳になりました私も勇気づけられることしきりです。

宗内先生がおっしゃるように、身を守る、国を守る、世界を守るまなざしを持たなければ生きていけない時代になったとのご心情に私も同感です。牛村先生や松村先生そして宗内先生のお言葉をじっくり拝読させていただきます。後日、またお手紙をさし上げたいと思っています。よろしくお願い申し上げます。 謹白

松村茂治 様

この度は「琅」をお送りいただきまして、  
どうもありがとうございます。二本とも  
拝読させていただきました。

一 本目につきましては、おそらく新自由  
主義的な流れがあるでしょうね、当該個  
人自身と彼（彼女をとりまく家庭・家族の  
みに帰属させようとしている傾向があるよ  
うに感じます。生態学的な環境との相互作  
用やエビジェネティックな発達のダイナミ  
クスは無視されがちであるようにも思いま  
す…。

そんな話はさておきまして、パリシリー  
ズは面白く拝読しました。二十六巻も読み  
なおしてみました。そうでした、モネのお  
話をお書きでした。

ヨーロッパには基本的に乗越精算という  
概念は無いということ、前にどこかで伺っ  
たように思います。銀座―高尾―大月の比

喩はなるほどとも思いました（関西人だと  
辛いかもしれません…）。心理学関係者で  
も電車ネタは、お好きな方が多いので、い  
ろいろと教えていただけるかもしれません  
ね。

それとトイレの件は大変でしたですね。

日本のトイレ事情とは大きく異なるとはい  
え…。本当におつかれさまでした。ベルサ  
イユの朝顔、なるほど…ですね。それと昔  
の駅のトイレは確かに壁で、下に溝があり  
アンモニア臭がきつかったように覚えてい  
ます。

そうそう、三本の矢の最後の一本がどこ  
にいったのか、少々気になっております。

3本目は海外で利用可能なスマホとか、ど  
うでしょうか?! 地図とかガイドとか、日本  
語でいろいろ検索も可能ですし…。

それでは、次回作(?)の文学館散歩シ  
リーズも楽しみにしております。また小説  
の方も是非、拝読させていただきます。

ではどうもありがとうございます。

徐々に暑くなって参りますが、どうぞくれ  
ぐれもお元気で経過ごしくくださいませ。  
失礼致します。

宗内 敦 様

謹啓 「琅」三十号、ありがたく拝受し  
ました。巻頭の二論文、いずれも感服いた  
しました。教育の終局の目的は世界平和の  
実現であると思います。いまの「六・三・  
三」制でいいのでしょうか。文科省は必要  
でしょうか。いろいろ考えさせられました。  
大兄の「エッセイ」ますます健筆ですね。

大兄が相撲に強かったとは初めて知りまし  
た。お互いあと何年でしょうか。せいぜい  
楽しみましょう。死ぬときは死ぬときです。  
一層のご健勝ご健康を祈っております。御  
礼まで。 敬白

第30号、お送りいただきありがとうございます  
しました。

違憲、合憲とか各界で論争が巻き上がっ  
ている「安保法案」、牛村さんの論文を何回  
も読み替えています。戦争を体験したも  
のとして理屈抜きにノーです。

先日、恒例?の大津に村田さんを訪ねて  
に感じました。九十二歳になったそうで、  
歩くのも不自由で、施設内でも歩行器の使  
用が欠かせないようです。

きました。年々加齢現象が進んでいるよう  
に感じました。九十二歳になったそうで、  
歩くのも不自由で、施設内でも歩行器の歩  
行器の使用が欠かせないようです。

帰途、京都の法然院を訪ねました。静か  
な本堂によい寺でした。少し離れた裏山の  
方に谷崎潤一郎や稲垣足徳といった文学者  
の墓がありました。その一画に哲学者九鬼  
周造の墓もありました。墓碑に、  
見はるかす山々の頂、梢には風も動かず  
鳥も鳴かず、ましてしばしやがては汝も休ら

はん

とありました。

いずれは、人生の幕も引かれる訳ですが、  
せめて「戦争」という言葉を死語とし、そ  
れを土産にこの世の舞台から降りたいと  
願っています。

琅の刊行について「もう少しがんばって  
みよう」とのこと心強いことです。

妄言多謝 5/8 白井 昭

宗内 敦先生

先生、大変ご無沙汰しております。

庭のアヤメが美しく咲いています。少し前  
まで「寒い!寒い!」と文句を言っており  
ましたが、「今日はなんだか暑い…」と思

うような陽気になってまいりました。3月下  
旬からこのGWまで、仕事が忙しく、桜が  
咲いてもゆっくりにとお花見する余裕もなく、  
気づいたらGWも終わりとなってしまいました。

さて、琅30号をいただきました。ありが  
とうございました。先生のメッセージを読

み、申し訳ありませんが、まず先に三浦様  
からのお返事を読ませていただきました。  
とでも、「希望も出て、新たなエネルギーに  
なる」と言っていたいただいたことで、この私  
でも小さな力に成り得たのだと、涙が目に  
浮かびました。春日部さんが、思うように  
ならない体調の中でもカウンセラーを目指  
し、学んでいることを知り、私も、三浦様  
と同様に、春日部さんの心身の再生を祈る  
ばかりです。

『教師は子供のを深く傷つけてしまうかも  
しれない存在である』ということを肝に銘  
じておきたい」と話していらつしやします  
が、母親だって、またどんな人であっても、  
誰かを傷つける存在になりうるということ  
を念頭におき、日々の暮らしの中でも言葉  
や行動に気をつけたいと思いました。

私にも、統合失調症に悩む今年50歳にな  
る従弟がおります。彼は20歳頃、理学療法  
士(だったと思いますが)を目指しており

ました。実習先での嫌がらせがあり、本人は努力したのに実習成績を悪く評価されたと聞きました。それは、その道に進むことは難しいということであり、希望を失ったようです。目指したことは違う職業に就き、そこではとても歓迎されたようですが、結局は心身の不調で退職することになり、統合失調症と診断されました。86歳の伯母と二人暮らしで、仕事には就けていません。「自分は生きていてもしかたがない」という彼の言葉に、いつも、どう言ってあげればよいのか(?)と思います。春日部さんのように自身の辛い経験を踏み台にしてカウンセラーになろうという気持ちがあるのはまだ希望があると思います。周囲がどんなアドバイスしても本人の心が動かなければどうにもなりませんから。紹介されていた「たいせつなきみ」、私は読んだ事はありませんが、読んでみたいと強く思いました。自分も読んで、また徒弟にも紹介したいと思い、先ほど注文したところです。

さてさて、先生の「二言、三言、世迷い言」を読みながら、都留文の宗内ゼミで、先生のクラシックギター演奏を聴いたこと、スキーを先生に習ったことをまた思い出していました。こういう楽しかった思い出をたくさん持っているということは幸いです。

ところで、先生はお相撲も得意だったのですね。テニスも一緒にしましたが、さすがにお相撲はしなかつたですね。

勝敗にこだわらるる礼節を忘れたスポーツ。競技に勝敗はつきものですが、礼節を重んじる心は大切ですね。私は羽生結弦選手が大好きで、フィギュアスケートの番組をよく見ます。羽生選手がリンクから出る時に、必ずリンクに一礼する姿にいつも感心し、素晴らしい選手だと思っています。

私の息子達は、香川県多度津に本山のある少林寺拳法をずっと習っています。少林寺拳法は、開祖 宋道臣が中国の少林拳を習得して、日本で創始した武道ですが、基本

は護身で、練習は演武という「型」が中心です。合掌礼に始まり、合掌礼で終わります。鎮魂行という座禅をすることもありますが、練習場に入るときは靴をきちんと揃えず。(当たり前ですが、これが大事ですよ。)大きな声で挨拶をし、先輩を敬い、後輩をいたわりながら修練を積むことを教えられます。「自己確立」「自他共楽」を目指す武道です。競技はもちろんありますが、演武が終わった瞬間に勝敗がつくものではないためか、勝った、負けたの一喜一憂は他のスポーツに比べれば無いように思われます。

先生のエッセイ、「日本文化を守る」を読み、息子たちに少林寺拳法を習わせて良かったです。今日のお便りの最後に、「たかが川柳されど川柳(6)」にあった「マイナンバーきつと当たるとしまいだむ」に共感。なんとなくそんな気がします。私もしまいでいます。まとまりのない話になりました。薬無用

でお過ごしになられているご様子に安堵しております。これからもお体を大切になさってくださいね。歌をうたいながら回遊路を歩かれる先生のお姿を想像しながら、私も明日からまた元気に頑張ろうと思います。 それでは。

メールにて大変失礼いたしました。  
5/8 中山京子

拝復

「琅」三十号ありがたく拝受いたしました。手のふるえ相変わらずですので御判読願ひ上げます。先生のエッセイで、梅原先生の講演を聴かれたとのこと、大層羨ましく思いました。「日文研」なる学会に所属もですが、京都まで足を伸ばせること(老生足腰に自信なし)など。「人類哲学序説」の草木国士悉皆成仏の日本文化を中心に据えて未来を救う哲学をこの十年間に完成させるという梅原先生の意気込みに触れられたのですね。

稀勢の里には、期待し、いつも裏切られてきましたが、今年あたりは本物になりそうな気がしますね。先生の声が聞こえて四股を踏んでくれればいいですね。新史実によつて歴史を修正することはあるでしょうが、主義、主義者という使い方は、難しいですね。 勿々不

5/10 古明寺義勇

松村 様

拝啓

ご無沙汰しております。 同人誌「琅」をお送り頂き、ありがとうございます。僕も、ジベルニーとヴェルサイユに行つたときの武勇伝(?)を思い出して、楽しく読ませていただきました。 またお会いできることを楽しみにしています。

5/10 氏家 英幸

宗内先生

大変ご無沙汰致しております、瀧川美生です。

琅29号・30号をお送りいただきまして、誠にありがとうございます。去年からトルコに滞在しており、先日帰国してから琅の到着を確認いたしましたため、お礼が遅れてしまいました。申し訳ございません。

琅ももう30号なのでですね。私が明星大学に在学していた頃は、15、16号くらいでしたでしょうか。あれからも随分と年月が経ってしまいました。私はすっかりトルコの生活に馴染み、帰国した今も、次はいつトルコに行こうかと、そればかり考えております。

まるで季節のお便りのように届く琅は、明星時代の先生のあたたかなご指導を思い起こさせるものです。

今後、末永い先生の御活躍をお祈り申し上げます。

5/12 瀧川美生

宗内 敦様  
「琅」三十号、ご惠贈いただき、有り難うございました。  
三十号、三十年の歳月は、過ぎてしまえば呆気なく思いますが、継続したという事実が重大で、貴いものであります。

「歴史に向き合い、語り合うために」  
歴史修正主義といわれる考え方は、いづれから表面化したのでしょうか。教科書検定違憲訴訟が、よく印象づけられております。

学問として歴史を学んだわけではない一般人である私にとり、歴史認識が、過去の人生、体験経験に大きく影響されていることは事実であります。私は戦争中、空襲により焼け出されました。被害から精神的経済的に立ち直れるまで、ほぼ二十年を要し、さまざまな辛酸を嘗めました。いまでも、アメリカに家を焼かれた、その元をつくったのが日本という「国家」である、との認

識が改められません。  
戦争は「悪」であります。私は憲法擁護、安民法制反対、立憲民主主義保持の立場を尊重いたします。

「文部科学省にも申す」  
引退して二十三年にもなりますと、現場の事情に疎くなります。それに高校勤務でしたから、「イジメ」とかいふ話をついぞ聞きませんでした。長男が幼稚園、小学校のころ、ちよつとあつたらしいですが、昔も「イジメ」はありました。私も被害者でした。東京から疎開してきた同級生のイジメられるありさまに、こつちが泣きたくなるぐらいでした。

とはいえ私たちの世代に、「自殺」した例を聞きません。情報機能未発達の時代でしたから、あるいは伝わらなかつたのかもしれませんが。  
「イジメ」は、今後もなくならないでしょう。人間の本質に根差した行為だから

です。「イジメ」が常に起こり得るものとの前提で、一件でも少なくする方策を考えることが肝心と思います。

イジメられるのが、どのようなタイプの子か、おおよそ想像が付きませぬ。腕力の秀でた子、向こうつ気の強い子はあまり被害に遭いません。  
イジメる側の子に共通する特徴があるのでしょうか。昔は「悪玉」がおりまして、先生もそいつをマークしていればよい、といったものでした。

イジメる子についての研究が必要だ、という気がします。多分、「人権」が壁となり、困難だと思えますが。  
「二言、三言、世迷い言」  
「健康」、「老い」が、やはり気になりました。

父は重症の脳血栓を病み口がきけず記憶を失い、ほとんど植物状態のまま、二年九ヶ月床に伏しておりました。母が寝たきり

前略

先日、同人誌「琅」を送っていただきありがとうございます。「続々 アイ・ラブ・パリ」を興味深く拝見しました。トイレが近くなっている我々にとつて大問題ですが、ベルサイユでも、パリでも、プロバンスでも困った記憶がありません。早め早めに対処してしまふせいでしょうか。ぜひ続けて送ってくださいようお願いいたします。

宗内敦先生  
この度は、記念すべき『琅』三十号をご惠贈くださりましてありがとうございます。心よりお詫言申上げます。今号は3度ほど繰り返して拝読いたしました。

特に松村先生の「文部科学省にも申す」は興味深く拝読しました。「いじめが存在するはずはない。あつてはならない」

になつたのは一年足らずでしたが、白内障が進み、心臓障害のため手術が出来ず、耳も聞こえなくなりました。  
母の最期は「老衰」の診断でした。私は「どちらの死にもいやだなあ」と思つてます。でも、自分の力でどうにかなるものではありません。

まだボケてはいないつもりです。(そういうヤツこそ危ないようですが) 日常、誰の手も借りず生活しております。五年前、すでに命を落とすところを助かり、七十日間の入院。やつと回復したと思つた途端、腎臓ガンが発見され、二年前に手術。残つた腎臓も相当ボロになつておりまして、三ヶ月毎に検査してもらつてます。まだ透析する段階には至らないようですが。

体力回復を図り、四十代半ばより始めたウォーキングに励んでおりますが、所要時間は同じでも距離短く歩数少なく、体調そのものが以前の水準に戻りません。年齢からして、戻そうというのが無理な相談かも

しれません。  
耳が聞こえなくなりました。補聴器を使つても、使わないよりもまし、といったタチの悪い耳です。会話が億劫になり、息子たちとも必要最低限の口しかきけません。サツキへ水をやっている最中、通りすがりの人に話しかけられるのが恐ろしくてならない始末。  
母を見ていた六十代のころは、まだ自分の「死」まで考えませんでした。いよいよ「番」が廻つて来まして、心構えはもとより、見苦しい最期にならないだろうか、息子たちの荷物になりはしないかと、苦にしています。とりあえず、残しといつてもゴミにされるようなものの廃棄をと、心掛ける次第であります。

つい愚痴めいてしまいました。ご容赦願います。

ご健康第一にお過ごしくございますよう。  
5/13 依田茂夫

という考え方はびこっている、あるいはそのようなブレッシヤーがあるからこそ、悲しい事件が起こる度に、慌てて「いじめの実態調査」を行うような事態になるのでしょうかね。

私の中学校時代は「絶対に戻りたくない」3年間でした。1クラス50人、1学年9クラスという人数の多さだったからでしょうか、生徒の顔を覚えられず、授業中の指名は出席簿を見ながらという多数の教師、学級がだらしのないのは学級委員（私）のせいだと言つて殴る教師、勉強はできるのに描く絵はこの程度かと鼻で笑う教師・・・。嫌な思い出の教師は中学校に集中しています。教師間のいじめも存在しました。また、部活動（テニス部でした）での上下関係も厳しく、（先輩には）3回お辞儀してからボールを渡すべきところを2回しかなかったという理由で集中的にボールをぶつけられたり、学級委員の仕事で部活動に遅刻すると、狭い部室に連れ

ていかれて先輩たちに囲まれ次々と暴言を吐かれたり・・・。（今思い返すと滑稽ですが当時は）いろいろ辛いことはありませんでしたが、相談したいと思えた中学の先生は誰ひとりいませんでした。教師間の連携（中連携）がうまく機能すれば、現在中学校が抱える問題の、解決の希望が見えてくるようにも思います。

「続々 アイ・ラブ・パリ」とても楽しかったです。「ヴェルサイユ ダーティコナー」をすぐに検索しましたし、いろいろ調べましてパリのトイレ事情にも少し詳しくなりました。また、シルクハットや日傘のルーツも初めて知りました。今号には、上野先生のエッセイにもモネが登場しましたので、睡蓮の池の写真を拝見しながら、先生方のエッセイを行ったり来たりして楽しく拝読しました。

『琅』二十九号への手紙で、私の拙い「小説」を掲載していただきまして、大変恐縮しております。当時の赤羽さんのこ

とを先生にお知らせしたくメールでお送りさせて頂きました。あまりの拙文に、身の縮む思いではありますが、赤羽さんのことを、宗内先生とご一緒に話題にできますことを嬉しく思います。

4月、長男が小学校に入学しました。強度の乱視のため幼稚園のときからメガネを着用しているのですが、入学後にかかわれないか案じておりました。ところが入学式の日、担任の先生がメガネに関するあだ名を長男につけたそうで、息子は入学式初日からクラスの子にかかわれてしまいました。毎日帰宅しては「学校に行きたくない」と泣く息子。これからの人生でメガネをからかわれることは、まだまだあり得ること、あだ名をつけたのは先生であること、良かれと思つて下さったことであろうことから、担任の先生には相談しづらく、どうしたものか悩んでおりました。ですがあまりに続くので、思い切つて相談しました。先生は自分の軽率さを詫び、すぐ

に対応してくれました。先生の指導が良かったのか、1年生という素直さが幸いしたのか、からかいはその日で収まりました。おかげで、最近やつと落ち着いた毎日を過ごせるようになりました。

長男を産んだとき「子どもが0歳なら親も0歳」という言葉に励まされて子育てしてきました。今はまさに「子どもが1年生なら親も1年生」ですね。長男は新生活に慣れ、毎朝笑顔で登校しています。親としての未熟さを痛感しながら、まぶしい背中を見送る日々です。

『琅』20号のお祝いを申し上げたのがついでこの間のようです。『琅』30号、誠に改めてどうもありがとうございます。武蔵丸の次は、稀勢の里が先生の「愛弟子」になりそうですね。

暑さが厳しい季節となりましたが、果樹園にいらつしやる先生のお元気なお姿が目に見えるようです。そして、「はかなく考えている」とおっしゃっていましたが、私

は先生の小説を心待ちにしております。

これからのますますのご活躍をお祈りいたしております。

7/6 蓬田澄子

宗内 敦様

地震、災害と不安な日々ですが、先生におかれましては益々ご健勝のこととお慶び申しあげます。

『琅』30号を賜り有難うございます。すぐにお礼を申し上げるべきところを、大変遅くなり申し訳ありません。

いつもいつも あたたいかいお心遣い、心よりお礼申し上げます。

『琅』を拝受いたします少し前に、都留文大時、私は「方言学研究会」というサークルに在籍しておりました。このたび、故稲垣正幸先生の御息様、金田一春彦記念図書館のご協力を得て全県地域別言語地図を完成したとの連絡を受け、HPを開きました・・・

むむ 難しい 私が卒業できたのは奇跡！と痛感しました。卒業以来の連絡（大学時、同時に在籍していない先輩です）（名簿が残っていたのか）・・・頭が下がる思いです。

今、『琅』（たかが川柳されど川柳）モネの睡蓮の池に癒されています。早く『琅』を読みこなせるようになりたいと思います。

娘は今秋、ハワイで歌を披露することに、なり相変わらず音楽を続けるために仕事をしている状況です。

息子は東京で 就職内定をいただき、ほっと安心した次第です。

これから盛夏に向かつていくようです。また 先生御夫妻とお会いできる日を楽しみにしています。

どうか ご体調をくずされませんよう、先生、奥様 皆様お元気でお過ごし下さい。 7/10 細川 千恵美

